

令和5年度地域活動サポートセンター活動状況報告（1月31日時点）

事業名	概要	現状報告		成果	課題	今後の取組み
介護予防運動活動支援事業	市民に対し、介護予防のための運動活動を自主的に地域で行えるサポーターを養成し、地域にて実践することにより、高齢者の介護予防に繋げる	ポールンピック大会	<ul style="list-style-type: none"> 予選会 96チーム、参加者666人 本大会 15チーム、参加者220人 	予選会は各地域の公民館で行うということが浸透していることに加え、新しい地域からの参加もあり、予選会参加人数が増えた。	シニアクラブと連携して、参加地域を増やしてきたが、シニアクラブ連合会に属していない地域の参加がほとんどない。	来年度も各地域の公民館での予選会に加え、市民体育館での本選を行う予定。
		運動サポーター養成講座	<ul style="list-style-type: none"> 運動サポーター養成講座 令和5年6月終了 養成講座回数 3回 延参加者数 24人 フォローアップ研修（全10回のうち8回終了） 延べ参加人数 183人 地域でのフォローアップ研修 参加人数 60人（久保区、青柳区、舞の里3区） 2～3月に実施予定（中川区、舞の里1区、花見東1区、千鳥北区、庄南区） 	養成した内の1名はすでに地域活動に取り組んでおり、地域活動における家トレ（タオル体操など）の推進に繋がっている。3名の方は、ポールンピック大会の運営に積極的にかかわっていただき、サポーター活動に取り組んだ。昨年度より、取り入れた地域でのフォローアップ研修もサポーターだけではなく、地域の参加者にも運動の楽しさ、大切さを再認識していただけたため、今後のサポーター活動の充実に繋がったと思う。	地域には様々な運動活動に取り組んでいる地域があるが、自主活動としてのサポートがゆいであるということを知らない地域もあるため、ゆいの体制を周知し、次年度の養成講座の受講に繋げていきたい。	次年度も介護予防運動サポーター養成講座を実施し、各地域での運動活動の充実に繋げていく。
		地域で実施されている介護予防運動活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> 支援地域 17カ所 延支援回数 361回 延活動参加人数 4,894人 サポーター延べ支援数 865人 	千鳥東ヘルスステーションが1カ所立ち上がった。コロナ禍においても、サポーターが感染症対策を講じ、できる範囲で活動を行った。	サポーターがいても、コロナの影響で活動が止まったままのところがある。小野小・花鶴小学校区など地域サポーターが少ない地域での活動がないため、昨年度福祉会を通し、声掛けを行ったが、新たな地域活動にはつながらなかった。	地域での運動活動の充実のために、必要に応じ、継続して地域実習を実施する。
		出前講座	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり出前講座 回数 34回 延べ参加者数 526人 その他（シニアクラブ連合会体力等測定・地域リハ・鍵盤ハーモニカ） 回数 29回 386人 	シニアクラブからの依頼で体力測定を実施した地域が昨年度は14団体だったが、今年度は15団体（予定）と増えた。また、音楽活動を行っているつどいでも測定を行っているため、サポーターの活動の場が増えた。	家トレの推進に『運動やってみ隊』、体力測定を実施する『測ってみ隊』とそれぞれ活躍していただいているものの、少数で行っているため、新たな担い手を徐々に見つけていきたい。	まちづくり出前講座及びシニアクラブ連合会、各地域のつどいでの体力測定を実施
運動習慣定着化事業	ケア・トランポリン健康運動教室を通し、運動習慣の定着化に繋げていく	ケア・トランポリン健康運動教室	<ul style="list-style-type: none"> 花鶴丘1丁目区 20回 庄北区 20回 	地域の公民館での開催に変更したことにより、参加者もより身近な場所で実施できたことに加え、地域活動の活性化に繋げることができた。	地域での実施のために、会場の確保などといった地域の世話役がいないと実施が難しい。	今年度同様に地域活動の一環としてケア・トランポリン健康運動教室を実施し、運動習慣の定着に繋げていく。

令和5年度地域活動サポートセンター活動状況報告（1月31日時点）

事業名	概要	現状報告	成果	課題	今後の取組み	
介護予防音楽活動支援事業	地域で音楽を通じた介護予防活動を行う人材育成を行い、地域の公民館等で介護予防活動を実施し、高齢者の健康づくりや介護予防を推進する	音楽サポーター養成講座	<ul style="list-style-type: none"> 音楽サポーター 36人 養成講座回数 8回 実習1回 延べ参加者数 68人 フォローアップ研修 10回 延べ参加者数 170人 	養成講座では8名が受講中。受講者全員が何らかの形で既にサポーター活動を経験しており、修了後の活動が期待される。今年度は、出前講座として施設から鍵盤ハーモニカの演奏依頼もあり、多くのサポーターが参加した。	地域住民の音楽サポーターによる介護予防音楽活動の開催をめざしているが、地域住民のサポーターがまだいない所もある（2箇所）。今後養成講座の受講生募集の時には心掛けて声かけしたい。	サポーター養成講座の受講修了後は、地域へ定期的なサポートのみならず、音楽の出前講座としての活動を広げたい。 音楽サポーター養成講座 10回+実習2回 フォローアップ講座 12回
		地域で実施されている介護予防音楽活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> 支援地域 19カ所 延べ支援回数 220回 延べ活動参加人数 1,813人 サポーター延べ支援数 387人 	新規に活動開始 1箇所 今年度は音楽サポーターの皆さんには地域支援の他に、12周年コンサートの準備、当日の会場整理に尽力いただいた。また、鍵盤ハーモニカの練習者を対象とした体力・口腔機能の測定を測定サポーターの支援を受けながら実施中。	鍵盤ハーモニカの活動を長く続けている方には、自分の楽器の購入を検討して貰いたいがなかなか普及しない。	フレイル予防に音楽を取り入れる為に家で一人でも練習出来るような教材や仕組みづくりの充実。
		活き生き音楽交流会	<ul style="list-style-type: none"> 参加団体（ハーモニカ・ウクレレ・ギター・詩吟・シャンテ・博多にわか・運動やってみ隊・鍵盤ハーモニカ19地域） 参加人数 237人 	古賀市で介護予防音楽活動を始めて12周年を記念するコンサートは、リーバスプラザの大ホールに約240名集って開催された。また、コンサートの中で、市長より、先だって表彰を受けた「健康寿命をのぼそうアワード」受賞のお披露目や、古賀市の介護予防音楽活動のサポーターの育成に尽力された、石内音楽療法研究所代表の石内先生をお招きし、感謝の意を伝えた。	3年ぶりに集ってのコンサートで、参加者からも大変好評で、直接集って交流する大切さを改めて感じたが、今回は会場までの交通手段に不安をおぼえる声や、準備にかなりの時間と費用を費やしたので、今後どの様な形で交流会を持続して開催して行くのが課題だ。	小規模でも音楽を通して交流する機会を企画したり、練習の励みになる様に、発表の場を設けていきたい。
介護予防サポーター活動支援事業	高齢者の社会貢献を促すことで、生きがいに寄与するとともに、地域や高齢者施設等の生活支援や介護予防も併せて進める	<ul style="list-style-type: none"> サポーター登録者数 232人 地域・施設等登録数 40カ所 延べ支援回数 731回 サポーター延べ支援数 1,680人 延参加者数 7,708人 	コロナによる活動の制限がなくなり、地域活動も活発になり、サポーターの活動も増えてきた。昨年度はコロナの影響で中止となったサポーターの受入れを希望する施設と介護予防サポーターのマッチング会を11月に実施した。	施設と介護予防サポーターのマッチング会を行い、3件マッチングが成立した。コロナ禍において施設でのサポーター活動が縮小されており、今後もマッチング会を継続して行い、サポーターの活躍の場の確保と施設の人手不足解消のため今後もマッチング会を継続して行う必要がある。	2月16日、19日に「古賀市の高齢者の現状」をテーマにした介護予防サポーターの登録研修会を実施予定。当日参加できないサポーターには研修内容を録画したものをもらい、サポーター登録者全員が研修を受けるようにする。	
地域活動サポートセンター運営事業	地域のつどいの場や高齢者施設等で行われる健康づくり等の活動を支援するボランティアを養成し、高齢者等の健康の増進及び社会参加の促進を図る	ゆいさば教室	<ul style="list-style-type: none"> 14教室 利用者数 1,262人 (ゆいさばサポーター 127人) 	ビギナー教室の受講がきっかけとなり、サポーター登録をするという流れが定着している。今年度から脳トレ体操とウクレレの2つの新講座が始まった。今後出前講座等での活躍が期待される。	出前講座の依頼が少なく、地域等に出向く機会が少ない講座がある。ゆいさば教室で養成されたサポーターのモチベーションアップのために活躍の場を増やしたい。	6月に令和6年度のゆいさばビギナー教室が開講予定。広報等で周知し、幅広い分野で活躍するサポーターの育成を図りたい。
		ゆい出前講座	<ul style="list-style-type: none"> 回数 24回 延参加者数 444人 	コロナ禍で依頼が減った出前講座の依頼が徐々に増えてきている。サポーターの意欲向上にもつながっている。	講座によって出前講座の依頼数に偏りがある。地域団体等にさらに周知し、依頼数を増やしサポーター活動を充実させたい。	令和6年度古賀市まちづくり出前講座の受付が始まるので、地域や施設等の多様なニーズに応えていきたい。
外出促進事業	高齢者の社会参加を促し、閉じこもりの予防と健康づくりを推進する	高齢者外出促進事業	<ul style="list-style-type: none"> 期間：令和5年7月～令和6年2月9日 シール配布対象イベント数 地域：218、行政：40 当選人数 150人 	コロナ禍において急なイベントの中止・変更になっても対応できるよう、令和3年度から事業の実施方法を一部変更し、通年シールの配布が可能となったことが好評で参加者にも定着してきた。	イベント登録をする団体が多い地域と少ない地域があり、地域間でシールをもらえるイベント数に差がある。	令和6年度の外出促進事業が4月から開始予定。地域により登録イベント数に差があるため、行政区長、福祉会、シニアクラブ等、地域の団体に事業への参加を呼びかけ周知する。
		こがんよか健康ポイントキャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> 期間：令和5年10月1日～令和5年10月31日 応募人数 94人 (当選人数 20人) 	令和5年度はアプリ内で貯めたポイントを3000ポイント消費し応募する方法に変更してキャンペーンを実施。キャンペーンを通してふくおか健康ポイントアプリを知ってもらい、健康づくりのきっかけとなった。賞品を「朝食にいいね！美味しい福袋」と「はかって健康！福袋」とし、健康づくりを意識した賞品とした。	キャンペーン3年目で昨年よりも応募人数は増えたが、さらに認知度を高める工夫が必要である。	行政区長、福祉会、シニアクラブ、市ホームページ等でキャンペーンの周知を行う。応募条件等を見直し、参加意欲を高める。

令和5年度地域活動サポートセンター活動状況報告（1月31日時点）

事業名	概要	現状報告	成果	課題	今後の取組み	
生活支援 体制整備事業	地域の支え合いネットワークの構築を行い、住み慣れた地域で高齢者が安心して暮らせる体制を整備する	地域支え合いネットワーク全体会議	<ul style="list-style-type: none"> 2層（小学校区）地域支え合いネットワーク全体会議 古賀市の高齢者状況報告 グループワーク実施 テーマ：地域課題に向き合う 	<ul style="list-style-type: none"> 8小学校区で地域支え合いネットワーク全体会議を開催 10/29舞の里（24人） 11/22古賀西（26人） 11/27花鶴（15人） 11/29小野（18人） 11/30花見（20人） 12/2青柳（16人） 12/11古賀東（21人） 2/13花鶴（19人） 12/16千鳥（34人） 	<p>令和5年度の2層地域支え合いネットワーク全体会議を「より身近な場所につどいの場を」をテーマに開催し「介護予防・生活圏域ニーズ調査から見えてきたこと」について1層より報告した。地域で何ができるかを協議し、その課題を基に地域で課題別会議に持ち込んでいくことが必要。</p> <p>地域の参加状況にばらつきがある、地域活動に関心が薄い地域が、やはり全体会議にも参加が少なく、ネットワークが築きにくい現状がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 後数年すると団塊の世代の高齢者が自動車免許の返納の時期が来る。そこから、地域のつながりがない高齢者が一挙に閉じこもっていく。そのリスクを回避していく取り組みが求められる。 介護保険における日常圏域ニーズ調査の結果が出た、その分析を来ない、古賀市の高齢者課題を明確にし、地域支え合いネットワーク通信にて、見える化を図った。啓発を今後も行っていく。 令和6年度より9期介護保険計画実施。
		ネットワーク通信	<ul style="list-style-type: none"> 16号：古賀市の高齢者状況 介護予防・生活圏域ニーズ調査から見えてきた高齢者の現状 17号：自立型持続可能な古賀市の介護予防事業について（3月末完成予定）各5,000部 	<ul style="list-style-type: none"> 16号の啓発 ニーズ調査の結果分析を行い16号に掲載し、地域支え合いネットワーク全体会議やサポーター研修等の中で啓発を行う。 17号にて、古賀市の介護予防が構築してきたシステムなどを見る化し、今後の啓発活動に利用していく予定。 	<p>地域支え合いネットワーク通信は、体制整備事業の啓発や地域課題解決のための情報の見える化を目的に発行している。目的を達成するには、古賀市の高齢者課題を分析し、何の情報を見る化が必要があるかを明確にしていくことが求められる。</p>	<p>17号で古賀市の介護予防の現在までのまとめを行う。今後の取組に利用していく予定。ネットワーク通信は、古賀市の高齢者に関わる様々な社会資源や古賀市の取組等を見る化してきた。色んな場面で啓発に利用してきた。今後も積極的に活用していく。</p>
		介護予防・生活支援 課題別会議	<ul style="list-style-type: none"> 課題別会議（買い物支援・移動支援・山間地域の高齢者支援） 社会資源の開発 社会資源の見える化 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物支援 古賀市の高齢者にどんな買い物支援が必要なのか明確になってきた。関係機関と課題別会議を行う。 移動支援 経営戦略課と健康介護課とSCとの課題別会議を行い情報を共有する。 山間地域の高齢者支援について 「スマートアグリビレッジおの」の取組に参画、農林振興課と連携して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物支援 古賀市は、公民館等に人を集めての買い物支援は課題が多く成立しにくい。個配の充実を工夫する必要がある。 移動支援 移動支援の課題は地域課題ではなく、年齢課題である。どの地域も85歳過ぎると公共交通機関での移動が難しく、特に医療機関への受診への支援が必要となる。 農山間部の高齢者課題をデジタルで支援する方法を協議中。まずは、スマホの使い方の浸透が必要 	<p>高齢者が住み慣れた地域で支えあい、健やかに安心して暮らすためには、地域の高齢者課題を、様々な関係機関や市民、市民団体、企業などが情報共有し、課題は明確になったら関係者間で課題別会議を行い、新たな取り組みにつなげていくことが重要である。SCは、そのコーディネートに関わっていく事が最も重要な業務である。</p>
		SC連携タイム	<ul style="list-style-type: none"> 年間24回実施予定 月2回実施 SC/CSW学習、情報共有・事業の構築 地域交流カフェ（年5回） 	<p>2層生活支援コーディネーター3名配置し、地域担当を決め、活動を行い、月2回、1層・2層の生活支援コーディネーターの情報共有を行っている。</p> <p>地域交流カフェでは、介護予防サポーターと地域・高齢者施設・地域包括支援センター等とのマッチングが推進できた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題が明確になると、1層・2層の生活支援コーディネーターの連携は重要となる。 なかなか地域支え合いネットワーク全体会議で地域から出た課題が、課題別会議に広がっていない 	<ul style="list-style-type: none"> 課題別会議が今後広がっていくように、情報共有の在り方を工夫していく。 介護予防サポーターの活動と地域のマッチングを強化していくためにも、地域交流カフェの活性化を図りたい。